反事發覺、○略中仰左右京職、警固街巷、亦令固山城國五道、○略中大藏少輔從五位下藤原朝臣勢多雄守淀渡、

〔三代實錄二十清和〕貞觀十六年八月廿四日庚辰、大風雨、○略中與度渡口四邊三十餘家、山埼橋南四十餘家流、

〔枕草子六〕卯月の晦日に、はせ寺にまうづとて、淀のわたりといふものをせしかば、舟に車をかきすへてゆくに、○略下

〔枕草子春曙抄六〕淀のわたり　古は橋なくて、舟渡りせしなり、

〔範國朝臣記〕高野山御參詣記

永承三年十月十一日口子、○此間文闕廟○海空令參紀伊國金剛峯寺給、○略中曉更出御、鹿差御車藤原賴通○上達部已下著布衣前驅、遲明於淀渡遷御御船、宇治殿○中略卯剋著御山埼南岸、

〔十訓抄一〕俊賴朝臣語云、白川院、淀に御方違の行幸ありけるに、五月ばかりの事にや有けん、女房殿上人の舟あまた有けるに、曉に成ほどに、向かたに郭公一こゑほのかに鳴てすぐ、俊賴一首詠せまほしくおぼえしに、女房の舟中に忍びたるこゑにて、淀の渡のまだよぶかきにとながめられたりし、時に望てめでたかりき、人々感歎していまにわすれず、あたらしくよみたらんには、まされりとなんいはれける、

〔拾遺和歌集二夏〕天曆御時、御屏風に淀のわたりする人かける所に、　壬生忠見

いづかたになきて行らんほとゝぎすよどのわたりのまだ夜ぶかきに

〔源平盛衰記三十二〕落行人々歌附忠度自淀歸謁俊成事

落行平家ノ人々、○略中相傳譜代ノ好ミ不淺、年來日比ノ重恩モ爭カ忘ベキナレバ、人ナミ〳〵ニ涙ヲ押テ出タレ共、心ハ都ニ通ツヽ、行モ行レヌ心也、淀ノ大渡ニテハ、南無八幡三所大菩薩、再都